

ハーブソン Hokkaido 2022

結果・速報版



北海道爬虫両棲類研究会

はじめに

「ハーブソン Hokkaido 2022」は、2022年4月16日～8月22日までの期間に、北海道爬虫両棲類研究会主催で行われました。今回で10回目となりました。皆様のご協力に感謝いたします。本年は参加者は多くはなかったものの、非常に多くのデータを各チームからご送付を頂き大変ありがとうございました。ご参加および応援して下さいました方々に御礼申し上げます。

今回の速報は、簡易的な結果報告と競技部分の受賞の発表となっております。詳細な報告、及び結果等については、2021年～2025年のデータを蓄積の上取りまとめ、今年度内に報告書を作製する予定であります。

北海道爬虫両棲類研究会
副会長 徳田龍弘

調査の結果について(10/27までの集計分として)

(さっぽろ生き物さがし【賞授には関わりません】のデータはまだハーブソンへの反映がまだ出来ていないので未集計です)

参加チーム数：14 チーム(昨年比-8)

ばいかだ / 自然ウォッチングセンター / のっばら研究所 / アマアアアアアアマガエル / とかち蛙探偵団 / あげは / ぼんじろう / チーム西堀 / チームきたはく / HHS 情報収集 / Kawazu Lab / しべはく / チームパパさん / チーム名無し沼

参加者数：のべ 27 名(昨年比-29)

調査されたエリア：83 エリア(昨年比-83)

期間内調査で確認された種：14 種(昨年比-4)

ヒガシニホントカゲ / ニホンカナヘビ / コモチカナヘビ / ジムグリ / アオダイショウ / シマヘビ / シロマダラ / ミシシippアカミミガメ / エゾサンショウウオ / ニホンアマガエル / エゾアカガエル / アズマヒキガエル / ツチガエル / トノサマガエル

頂いた生息データ数：

正式記録(確認データあり)：266(-162), 参考記録(確認データなし)：12(-28)

その他の期間記録(確認データあり)：25(-108), 番外(史跡名勝)データ：0(0)

各詳細データについて

速報データは以上です。報告データも300を超えております。コロナ禍と周知不足の中、皆さんとても頑張ってくださいと思います。改めて御礼申し上げます。細かな種ごとの分布や検討については、2025年度の発行を予定している「ハーブソン Hokkaido 2021-2025 結果報告書」(北海道爬虫両棲類研究報告別冊)にて行う予定です。

受賞等について

「ハーブソン Hokkaido 2022」では、調査をして下さった方々に5つの賞を検討いたしました。各受賞チームには賞状等を贈呈する予定です。

★最優秀賞

ハーブソン期間中に最も多くの種を、正式記録として報告して下さったチームです

受賞者: **ばいかだ**(13種) 2位: アマアマアマアママガエル(11種) 2位: Kawazu Lab(11種)

★カナヘビ賞

ハーブソン期間中にニホンカナヘビを最も多くのエリアで確認したチームです。

受賞者: **ばいかだ**(4 エリア) 2位: 自然ウォッチングセンター(3 エリア) 3位: しべはく(1 エリア)
3位: アマアマアマアママガエル(1 エリア) 3位: Kawazu Lab(1 エリア)

★ばいかだ賞(最多エリア調査賞)

ハーブソン期間中に最も多くのエリアを、調査して下さったチームです。

受賞者: **とかち蛙探偵団**(24 エリア) 2位: 自然ウォッチングセンター(15 エリア)
3位: **ばいかだ**(12 エリア)

★Booby3賞

種数が最下位から3番目の方、1 チームに授与します。運要素が高い賞です。

受賞者: **チーム名無し沼**(2種)

★中島宏章賞(写真賞)

写真賞に応募のあったものを、野生動物写真家の中島宏章氏(<http://hirofoto.com/>)に選定していただきました。



受賞者: **Kawazu Lab**(写真題: 青いアマガエル)



次点: アマアマアマアママガエル(写真題: ZIGZAG)

おわりに

この発行物は速報ですので、簡易発表です。細かな種の分布確認や考察、参加者の感想やハーpsonの今後についてなどを細かく記録したものは、今年度発行予定の「北海道爬虫両棲類研究報告」別冊版「ハーpson Hokkaido2021-2025結果報告書」にて報告する予定です。

ハーpson Hokkaido 2022は近年の感染症対策として、あまり大々的には行いませんでした。対策や人流の扱い等の傾向を見て、来年はもうちょっと周知して規模を大きくできればと思います。一方で1チームずつのデータ数を見ると、1チームでたくさんのデータを頂いているものも多く、運営としてはありがたいところでした。今年はカナヘビカップとしてカナヘビの情報を募りましたが、主催者をはじめあまり多くの場所でカナヘビの記録を稼ぐことができず、競争としては規模の小さいものとなりました。来年はエゾサンショウウオカップを行いたいと考えております。各地域でご参加、ご協力下さった皆様に感謝いたします。本年度は助成金事業には応募せず、報告は速報のみとしています。データをまとめた報告書の作成印刷等は上記の通り、2025年度を目標に行って参ります。完成を楽しみにお待ちしております。

今年、関東を中心としたのツチガエル個体群が新種の「ムカシツチガエル」となりました。北海道のツチガエルは外来と考えられており、ムカシツチガエル個体群も入っているのではないかと徳田は、主催者としても、北海道の両爬図鑑の著者としても、戦々恐々としております。(生態系などの状況としては大きな変化はないと思われませんが、分布状況がややこしくなるのではと頭痛がしています…)

ハーpsonではデータを蓄積することを主な目的としており、将来的にはこれらのデータから生息状況の推移や、その時代の分布状況などを記録しておければと考えています。今後も可能な限りデータを蓄積していきたいと考えております。

伝染病の蔓延状況がおさまり、皆でワイワイとハーpsonしながら観察会などを開くというのも、楽しそうだと思います。いつか実現したいところです。

今後ともハーpson Hokkaido 及び、北海道爬虫両棲類研究会をよろしくお願いいたします。

執筆：徳田龍弘（北海道爬虫両棲類研究会・副会長）

ご応募いただいた、ほかの写真賞作品

「居留守」ばいかだ（選考対象外としています）

